



## V. 健康食品管理士になって

### 補完代替医療との関わり

中出 祐介

(金沢大学附属病院検査部、金沢大学大学院医学系研究科)

はじめに、あまり見識がない方もおられると思いますので簡単に補完代替医療についてご説明いたします。補完代替医療とは「現代西洋医学領域において、科学的に実証および臨床未応用の医学・医療体系の総称」と定義される医療分野です。この補完代替医療には、健康食品（サプリメント）をはじめアロマセラピーや伝統医学などさまざまなものがあります。WHO（世界保健機関）によると、世界保健管理業務の65～80%が西洋医学以外のこの補完代替医療で占められています。このような背景の中、健康食品（サプリメント）や伝統医学などを科学的に検証し、西洋医学を補完する形で用いようというのがこの補完代替医療の目的です。ではなぜ、今日この補完代替医療が注目されているのでしょうか。もともと我々医療従事者の目的は、病気を「治癒」させることです。しかし、我々医療従事者はこれまで病気を「治す」ことばかりに目を向け、「治癒」のもう一つの目的である「癒すこと」やQOL（生活・人生・生命の質）を向上させることをおろそかにしてきました。その結果、患者と医療従事者が目指す医療との間に大きなギャップが生まれ、人々は医師や医療従事者に相談しないで補完代替医療をもちいるようになったのです。現在の日本において、健康食品（サプリメント）はその最たるものと考えられます。



それでは本題に入らせていただきます。私は、5年前にこの資格を取得させていただきました。糖尿病療養にも参加させてもらっていたので、食事療法には興味を持っていました。その当初は糖尿病療養に役立てれそうだし、健康食品管理士認定協会が設立された年でしたので、資格が取得し易いだろうという安易な気持ちで受験をしました。ところが、資格を取得してからは大きく人生が変わりました。まず、中部地区の幹事に選んでいただきました。臨床経験も浅く、若輩ものの私がどうして選ばれたのか不思議で理由をお聞きしました。理由は北陸には健康食品管理士が少なく、しかも大学病院に所属している方がほとんどいないからとお聞きしました。実力不足でほとんどお役に立てないことを条件にお引き受けしました。幹事になってからは、本当に貴重な経験を数多くすることが出来ました。まず幹事としての初仕事は、昨年度に開催した金沢での研修会です。これほど大きな会の世話人をするのは初めてで、何もかもが手探り状態でした。少し前にちょうど金沢大学附属病院に補完代替医療外来が設立される案内を拝見しました。面識はありませんでしたが、この先生方の講演をぜひ聴講したいと思い、研修会の講師の依頼をさせていただきました。このとき講師を依頼した金沢大学大学院医学系研究科臨床研究開発補完代替医

療学講座の鈴木信孝教授、大野智准教授（現 東京女子医科大学国際統合医科学インスティテュート）との出会いが健康食品管理士認定協会に大きな利益をもたらしたと思います。鈴木教授は日本補完代替医療学会理事長を勤められており、補完代替医療における先駆的存在でした。この鈴木先生が健康食品管理士に非常に興味を持っていただき、長村理事長らとお会いしていただきました。その結果、日本補完代替医療学会と健康食品管理士認定協会が協力することになりました。このことには、非常に利点があり日本補完代替医療学会はおもに医師中心の組織であり、健康食品管理士認定協会はコメディカル中心の組織であるのでお互いに補い合うことができるようになります。つまり学会や研修会を共同開催したり、実際の臨床で協力し合ったりと将来的なメリットは非常に多く考えられます。その最初の試みとして、2009年11月21日(土)～23日(月：祝日)にかけて合同で第12回日本補完代替医療学会学術集会が開催されます。主な内容は、病院や社会での健康食品管理士の地位向上のための決起集会（健康食品管理士向けシンポジウム）や様々な健康食品のデータセミナー、健康食品管理士認定試験（補完代替医療をされている医師にも資格を取得していただくため）など非常に有意義なものとなっています。是非参加してください。ご存知のとおり、高野山は世界遺産に指定されており、風光明美な心落ち着く場所ですのでご家族ずれにも最適だと思います。また、健康食品管理士認定協会より案内があります。

次に臨床での活動についてですが、残念なことにまだ健康食品管理士としての活躍はありません。その原因は、この資格の認知度がまだ低いからだだと思います。健康食品に関する専門職の必要性は強く望まれているので、あとは啓蒙活動次第で様々なチャンスが生まれると思っています。その一例ですが、トクホについての総説をTeam approachというオンラインジャーナルに執筆させてもらいました。さらに北陸での会員数増員の目的も兼ねて金沢大学薬学部や医学部保健学科の学生に健康食品管理士の重要性を各科の教員を通して宣伝していただいています。また学術的な取り組みですが、現在糖尿病患者における健康食品使用の現状を簡単なアンケートをもちいて調べています。将来なんらかの形にまとめご報告できたらと考えています。

最後に臨床検査技師兼健康食品管理士として取り組んでいることを、まだ将来展望ですがご紹介させていただきます。21世紀は「予防医学」が一つのトピックです。この領域に一石投じることが大切だと考えます。具体的には、日本の医療水準は世界トップクラスです。しかし、予防医学とくに健康食品に関する科学的な研究はほとんど未開の地です。健康食品の中には、使用方法によっては非常に危険なものがあります。良いものを探し出すことも大切ですが、すべての安全性を証明することも我々の大きな役目の一つだと考えます。また、もう一つの役目は、病院では治療しない病気になる一歩手前の「未病」の段階で国民の皆さんに医薬品や科学的根拠のある健康食品を提供できればと考えています。現在の西洋医学では「健康な人」や「未病の人」を対象に使用できる薬剤は存在しません。しかし、補完代替医療では可能です。そして、一般の方々も潜在的にこのようなことを望んできています。なぜなら、現代人は忙しいストレス社会の中で疲労感や生活習慣病などへの不安を感じながら生活しています。さらに情報化社会により、かなりの医学的知識を持っています。よって、このような背景から現代人は健康の大切さを再認識し自分の健康を自分で守りたいと考えています。このような声に応えるべく、鈴木教授の先輩の産婦人科医である杉田先生が、自費診療クリニックを金沢市に開業されました。現在、そのクリニックにも関わらせて頂いています。このクリニックではさきほど述べた問題点をクリアできる可能性

が秘められています。このクリニックでは完全にお客さんの依頼に応じた医療の提供を目指しています。たとえば、生活習慣病をはじめとする様々な病気が気になる方は、その病気に関連する検査を自分で選択して受けることができます。また病気だけでなく、肥満の方は遺伝子検査により肥満のタイプを同定し、効率のよいダイエットのために原因に沿った医薬品や健康食品の提供なども行う予定です。また、様々な効能（疲労回復や肌の調子を整えたいなど）がある点滴もお客さんが選んで受けることができます。さらに、様々な健康食品の安全性試験も行われる予定です。一例ではありますが、今までの保険医療では行えなかった、まさに21世紀型医療の試みです。ご興味のある方は、是非ホームページ（<http://katamachi-c.jp/index.html>）をご覧ください。

以上、簡単にではありますが私が健康食品管理士になってからの経緯です。この資格を取ってからは、検査だけではなく薬や栄養（食事）のことも考えられるようになり職域が広がりました。また補完代替医療という新しい領域にも関わられるようになりました。はじめは、この資格を取得することに何の意味があるのかわかりませんでした。きっと多くの方々がこの疑問を抱いていると思います。でも、新しい分野だからこそ自分次第で可能性が無限に広がっていることに気づきました。鈴木先生や長村先生をはじめとする新しいことへチャレンジされている先生方は、本当に輝いています。このようなすばらしい先生方とともに、国民の更なる健康のために活動できるこの資格を取得して私自身本当によかったと思っています。今後も院内や一般の方々に広くこの資格のことを知っていただけるよう、頑張っていきたいと思っています。



左前から

- ・金沢大学大学院医学系研究科臨床研究開発補完代替医療学講座特任教授  
日本補完代替医療学会理事長 鈴木信孝先生
- ・片町クリニック院長 杉田直道先生
- ・中出祐介（筆者）

左後ろ

- ・金沢大学大学院生と片町クリニック看護師